

飯田市新型コロナウイルス感染症対策
第11回 専門家会議 議事録(概要)

令和3年11月22日(月)13:15～14:25
於:飯田市役所 2階 第2委員会室

市長あいさつ

皆さん、こんにちは。久しぶりの会議ということになりますが、本日は足元の悪い中、また連休の谷間という中でお集まりいただきありがとうございます。

おかげさまでコロナウイルスの感染状況につきましては、大変落ち着いた状況が続いておりまして、この地域も9月以降、全国的にもこの一月の間に急速に感染者数が減っているという状況です。大変喜ばしいことだと思っています。また、この地域が落ち着いた状況となっているのも、お集まりの専門家の皆様のご尽力をはじめ、市民の皆様のご協力があつてこそと思っています。本当に感謝を申し上げたいと思います。

そうした中で本日もご相談申し上げたいのは、今後のイベント・行事での感染症対策についてです。成人式、お練りまつり、元善光寺の御開帳、御柱祭などが行われ、非常に人が集まる機会が多くなります。そうした中でどういった感染症対策が必要かということです。国から発表されたワクチン検査パッケージも改めてご紹介しながら、当地域でどのようなことを考えていかなければいけないかということで、何かを決めるというより意見交換をさせていただきたいと思います。成人式については、もうすぐ対象者への通知を出していきますので、内容についてご確認をいただきたいと思います。

専門家の視点からのご意見をいただければと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

(田中危機管理室長)

協議に入る前に報告をさせていただきます。8月から行っています抗原定性検査キットの配布事業の10月末までのアンケート集計を行いました。こちらの状況を2ページからの資料で報告させていただきます。

まず、検査キットの配布状況ですが、10月末までに50,689個の配布をしております。8月当初には一日3,000個を超えるような申し込みがありました。9月に入り感染が徐々に収まってきたところで申し込み数も減ってきているという状況です。グラフにつきましては、棒グラフで日ごとの申し込み数、折れ線グラフで累計申し込み数を記載しています。また、10月末時点で7,466件のアンケートを回収し、回収率は14.7%になっています。

内容ですが、3ページは使用者の年代別の傾向です。8月時点では10代～20代の若者の利用が33.2%と多かったのですが、10月に入ると10代～20代の利用は20.9%と減ってきており、お盆や夏休みにおける帰省の際に利用した方が多かったのではないかと推察されます。10月に入ってから60代の利用が増えてきています。感染状況が落ち着いてきた中で、旅行等の際に利用することが増えたのではないかと推察しています。

5ページの希望理由をご覧ください。8月には仕事、旅行、帰省等による他地域との往来のため検査を行ったという方が60.6%ということで半数を超えており、この水際対策の趣旨をご理解いただいていると言えるのではないかと思います。帰省については8月が34%だったものが、9月には18.4%に減少している一方で、旅行での他地域との往来が、8月には10.5%、10月には17.7%に増加しています。感染が収まってきて旅行等が増えたのではないかと読み取れます。それから新たに「不安なため」という項目を追加しました。8月から10月の通算で10%程度の方がいらっしゃるということで、症状もなく、リスクがある行動をしていないけれども、何かしらの感染の不安を抱えている方が一定以上いらっしゃるということです。この事業が市民の皆さんの安心につながっているのではないかと断言できるのではないかと見えています。

続いて7ページをご覧ください。自由記載の欄を設けております。全般的に安心できた、感謝する、よい取り組みだというご意見をいただいています。また、検査キットで検査をすることにより、自分自身の感染防止行動への意識が高まるという心理的な効果もあるとの意見もありました。また、検査キットで陽性となり、PCR検査でも陽性となった方が4名いらっしゃいますが、そのうち2名の方からアンケートをいただいております、1名の方からキットで検査していなければPCR検査を受けるのがもっと遅くなっただろうという回答をいただいております。その後の感染拡大を防ぐ効果が確認できた例であるといえると思います。以上、10月月末までのアンケートをまとめて考察とさせていただきますのでご覧いただければと思います。

それから8ページと9ページですが、これは検査キットを市民の皆さんにお送りする際に同封しているものになります。今までは、検査キットを使用して陽性となった場合は、保健所にまず連絡をしてくださいということを飯田市からアナウンスしていました。このたび陽性となった場合は医療機関に連絡をするようにできないかと保健所から相談があり、医師会にご検討いただいたところ、ご了承いただきましたので早ければ24日からアナウンスをしていきたいと考えています。注意事項の裏面に9ページにあります診療・検査機関の一覧を掲載し、ご自分の住むお近くの医療機関やかかりつけ医に連絡をしていただきたいと思います。

協議（以下、市長は座長となります）

（座長）

それでは協議事項にうつります。あいさつで申し上げたように今後のイベント、行事等での感染症対策ということで事務局から説明させていただきます。

（田中危機管理室長）

10ページからになります。こちらは国が公表しましたワクチン・検査パッケージの内容です。国から送付された資料を添付しています。皆さんご存じかと思いますが、おさらいをさせていただきます。緊急事態宣言あるいはまん延防止等重点措置が出されているときでも、社会活動や経済活動を停滞させないよう、一定の制限を緩和する際の条件として、記載のものを取り入れていくというものです。飲食店においては、第三者認証制度に認証されたお店に限りますが、営業時間や酒類の提供についてすべてを緩和するという。イベントにおいては、人数の上限等を一定程度緩和すること。移動については自粛の要請に含めない。ということであります。このワクチン・検査パッケージ制度を利用した場合、規制が一定程度外れるというものであります。具体的な内容につきましては、11ページ以降に書かれていますので、ご覧いただければと思います。

まず、12ページをご覧ください。現状と緩和の内容の比較が記載されています。12ページは飲食についてです。まん延防止等重点措置地域と緊急事態措置区域では、20時までの時短要請あるいは酒類の提供の禁止が行われていますが、ワクチン・検査パッケージ制度の適用によると、例えば人数の上限なし、時短要請なしと変わってきます。ただし、こちらについては、感染症対策をして認証されているお店という条件がつきますので、長野県でいうと「信州の安心なお店」ということになるかと思いますが、こうしたお店にワクチン・検査パッケージを適用するとこうしたメリットがあるということです。13ページはイベントです。基本的に大声が出るようなイベントは該当しませんが、ワクチン・検査パッケージ制度を適用しますと、収容人員の上限が収容定員まで可能になる。そして時短についても21時とされていたものが、制限がなくなるということになります。14ページは移動になります。現在はまん延防止等重点措置地域や緊急事態措置区域では、日中には不要不急な外出・移動自粛をすること。都道府県間の移動については不要不急の移動を極力控えるということが要請されるわけですが、緩和された場合には、外出につきましては自粛要請の対象に含めない。あるいは県またぎ移動も、自粛要請の対象に含めないという形

になるということが書かれています。15 ページには飲食店における「第三者認証制度」の概要が書かれています。イラストで描かれているような対策が取られているお店を都道府県が認証するということになります。16 ページはイベントを行うワクチン・検査パッケージ制度の条件になります。大規模イベント等を行う際は「感染防止安全計画」を県に提出することが条件になっています。①から⑦の項目についてどのような感染防止策をするのか計画し、県に提出することになります。17 ページは国が示す行動制限緩和の考え方です。3と4をご覧ください。3ではワクチンを接種していたとしても、ブレークスルー感染が一定程度生じるということを留意する必要があるということが書かれています。4にはワクチン・検査パッケージ制度を適用するといえども、医療提供体制のひっ迫が見込まれる場合においては、政府や都道府県の判断で制限を要請することがあるということが書かれています。

以上が国から出された資料に対する説明になりますが、18・19 ページがワクチン・検査パッケージ制度を飯田市版として活用できないかということで、考えた試案です。まず 18 ページからご覧ください。上から2つ目の◎ですが、国の要綱案概要ということで、緩和策についてはご説明しましたが、具体的な活用方法を書いています。ワクチン・検査パッケージ制度をどのようにやっていけばよいかということをもとめています。まず、ワクチンの接種証明ですが、ワクチンを2回接種し接種から2週間以上経過したという接種証明書または接種済書を提示することになります。提示については、本物、コピー、書類を写真にとった画像でも可としています。それから陰性証明は、PCR検査と抗原定量検査を推奨していますが、結果通知書と本人確認が必要となります。また、抗原定性検査も可していますが、この場合は薬事承認されたものであることと結果報告書、本人確認が必要となります。こうしたものを提示することによってワクチン・検査パッケージを進めていくというものになります。

これを飯田市の中で活用できる考え方ができないかということですが、このワクチン・検査パッケージは、まん延防止等重点措置区域または緊急事態措置区域において経済活動等を止めないために行うということですので、対象とならない場合、いわゆる県の感染警戒レベル4または5の場合においても、こうしたものを活用しながら経済活動等を行う際の感染防止策にできないかということを考えているところです。具体的なイメージは 19 ページになりますが、例えばイベントでの場面想定という箇所がありますが、レベル4あるいは5の時に、参加者が特定できる場合と参加者が特定できない場合の屋内・屋外イベントにおいて、出演者と観客を区別し、ワクチン・検査パッケージの考え方を取り入れることが出来ないかということを考えています。こちらの基準をまとめ、イベントを行う事業者等に対して感染防止策を提示していくということです。当然まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出ている場合は、国が示したワクチン・検査パッケージ制度を案内することになります。

こうした中で、いろいろな課題もあります。19 ページの上段になりますが、例えば、飯田市で現在配布している検査キットは研究用のもので、薬事承認されていないものになりますが、そうした検査キットでも可とすることができるのか、あるいは検査の費用負担をどうするか、考えていかなければいけないことはたくさんありますが、根本的に、こうしたことを感染防止策として活用していくことにつきまして、ご意見をいただければと思います。

(座長)

国のワクチン・検査パッケージの考え方についておさらいをさせていただいたうえで、飯田市独自のワクチン・検査パッケージをどう考えていくかということです。いくつか論点がありますが、国における検査キットは薬事承認されたものということからはじまり、いろいろと要件がありますが、私どもとしては現在使用している検査キットは薬事承認されていないもの、感度も確認できており、使い勝手もよいということで、これを飯田市独自のパッケージに活用したいと考えていますが、この点について心配事があるかということが1つあります。それから、先ほど申し上げたようにこれから大きなイベントを控えていますので、そうした時にどういった点を考えていかなければいけないかご意見をいただいて、今後活かしていきたいと考えています。国の対策も含めまして専門家の皆さんからご

懸念の点やご指摘がありましたらお願いいたします。

(委員)

飯田市で使用している検査キットは国が承認しているものではないですが、感度もよいので使用できると思います。様々な検査キットを調査していますが、値段と感度は相関しません。Ct値で考えると飯田市の検査キットはCt値 35 で陽性が出ます。人にうつすといわれるCt値は 25 で、Ct値 35 から 25 になるには 24 時間かかります。PCR検査でCt値 45 だった人が、翌日には 35、その翌日には 25 になった例があります。

(委員)

私も賛成です。国が認めたもの以外でも性能が良ければ、そうしたものをどんどん使うべきだと思います。回数を行うのが大事です。先ほどのCt値が下がって人にうつすということですので、何回も検査できるようにするには費用も関係してきますので、安くて何回もできるものを斡旋していただきたいと思います。

(委員)

19 ページにありますイベントの場面想定ですが、③に飯田市版ワクチン・検査パッケージの活用を推奨と書いてあります。飯田市版のワクチン・検査パッケージというのは具体的にアイデアを決めているんですか。

(田中危機管理室長)

接種証明書、接種済証、陰性証明を提示いただくということは国と一緒にです。飯田市版では陰性証明の際に、飯田市で配布している薬事承認されていない検査キットを使用することを可とすることを、飯田市版のワクチン・検査パッケージと考えています。

(委員)

飯田市版ワクチン・検査パッケージの意味は飯田市が使用している薬事承認されていない検査キットを使用するという解釈ですね。検査キットの精度は確認されていますので、この③をいろいろなところで利用してもらえればいいのではないかなと感じています。特に地域外の方々に関しては、ワクチン・検査パッケージで事業推進できればいいと思います。それから冒頭の説明にありました飯田市の社会実験についてですが、市民の皆さんも前向きに考えていただいております、検査をすることによって感染防御の考えが改めて身についたという表現もありました。始める前にいろいろなところから批判を浴びましたし、ハードルもなかなか高かったんですが、やり続けてきた結果、市民への教育的なアナウンスという部分においてもすごく有用だったと思います。そうした部分を含め、しっかり取り組んでいただけたらいいのではないかと思います。ワクチンだけでは 100%守り切ることは難しいですし、まだ指定感染症は解除されていませんので、どうしても陽性者は保健所経由をする形になっています。検査キットで事前に検査して陽性だったので、PCR検査につながったという意見もありました。検査キットを使っていなかったらPCR検査は先延ばしになっていただろうという話もありますので、今までやってきた社会実験をここに反映していただければ社会活動を徐々に開いていくということはいいいのではないのでしょうか。

それから、検査キットでの陽性があった場合の連絡先を保健所から診療検査医療機関に切り替えました。これについては、医師会の理事会で協議させていただきました。診療検査医療機関に関しては、県のホームページですでに公開されています。同時に、仮に医療機関へ陽性例の相談が来た場合に、定性検査で陽性となっているので、自院で定性検査を行っても意味がないだろうと、レベルを上げたPCR検査及び抗原定量検査で再検査

をすることが求められます。再検査を想定した紹介先の第一候補は当然検査センターになります。しかしながら、検査センターに紹介できない時間帯があります。平日の午後と休日です。そうした時に、待つさせていただいて検査センターの受付時間帯に紹介をすることが第一選択肢になりますが、患者さんの容態を伺ったときに、仮に待てない状況になってくると開業医の先生方にも大変混乱が生じますので、そういうときのために、検査センター以外でPCR検査並びに抗原定量検査をしている医療機関に対して、照会が可能かどうかの意向調査を行っております。医療界側でも検査キットを使って陽性が出た場合に対する再検査を含めた医療体制を情報を共有していく方針になっています。医療界における対応が後手に回らないように迅速に医師会として判断して進んでいますので、この場を借りてご報告させていただきます。

(座長)

ありがとうございました。最後にお話のありました再検査の体制につきましては、市立病院は関係ありますか

(委員)

PCR検査は必要であれば行うことが出来ます。また、当地域の他施設では抗原定量検査が出来る体制があります。全部を市立病院でということは難しいと思いますので、出来るところは他の医師会の先生方をお願いしたいと思います。治療や入院が必要だということであれば、当院の発熱外来で対応させていただきますが、検査まででしたらなるべく地域の先生方をお願いしたいと思います。

(委員)

追加です。検査センターの検査部門、私たちは迅速検査部署と名前を付けていますが、検査センターの迅速検査部署は市立病院の検査部が担ってくださっています。すなわち、検査センターへの紹介を第一優先にしているということは、市立病院に負担がかかっているということです。そういうことを考え、検査キットでの陽性はできるだけ市立病院に負担をかけないようにすることを、医師会で判断し検査医療機関へ意向調査中です。

(座長)

ありがとうございます。引き続き調整をお願いします。イベント等についてご発言があればお願いします。

(委員)

従来から会議に参加していますが、非常に経済界は苦しんでいる状況が続いています。特に飲食業や宿泊業だけでなく、コロナウイルスがなくなったからといって、いっぺんに回復するわけではありません。雇用の問題もですが、いったん縮小しているところはなかなか復活できないというのが現状のようです。そうした中で元気を取り戻すために、夏ごろから7年に一度のお練りまつりをみんなでやりましょうと考えていました。諏訪の御柱祭では地元の人以外は参加しないという衝撃的な報道がありました。お練りまつりでは感染対策をしっかり行い、この地域に多くの人に来てもらいたいということをテーマにしています。お練りまつりを成功させるために第6波をこの地域だけでも起こさせないというように、みんなで協力することが大事だということを会議所として再度声掛けをしたいと思っています。

経済の再生に向けてこの歩みを止めることなく、感染対策をしっかりやりつつ、難しくても歩み続けられればと思います。

(座長)

話があったように経済を回すために、皆さんと一緒に安全な状況を作った中で経済を回していきましょうというメッセージを市民の皆さんに出していかなければならないので、飯田版のワクチン・検査パッケージというものをしっかり作って、来年のイベントに適用していくと考えています。今日は具体的な適用場面についての話はありませんが、またご相談をしたいと思います。

今日もう一点確認したいのは成人式についてです。年明けすぐに予定していますが、参加者向けの案内をご覧いただき、ご指摘の点があれば伺いたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(秦野飯田市公民館副館長)

20 ページをご覧ください。飯田市成人式実行委員会では、令和3年度の成人式の開催につきまして検討をしています。その方法等につきまして、ご意見をいただければと思います。

まず、開催日は1月9日と例年同様となっていますが、4の開催方法を変更しています。感染状況が拡大状況ではない場合は、参集範囲を新成人、来賓・恩師・保護者等としています。感染症対策を行いつつ、参加を希望する新成人は全員参加、来賓・恩師・保護者等の皆様については人数を制限させていただく予定です。ただし、人数が集まりますので、飲食については水分補給を除き、禁止とさせていただきます。一方で感染拡大状況になった場合については、南信州圏域内在住の成人式実行委員会のみ参集をさせていただき、オンラインによる式典・交流企画を配信し、参加していただく開催方法を考えています。どちらの開催とするかの判断基準についてですが、まずは開催日2週間前の12月23日を基準に判断したいと思います。判断基準については、国や県からの移動制限、感染警戒レベル、医療警報・医療非常事態宣言の発出や病床使用率ということを勘案しまして、判断したいと考えています。感染予防対策ですが、こちらの提案につきましては、検査補助及び検査キットの購入について補正予算で要求中です。一覧表にまとめていますが、新成人の参加は約850名を予定しています。圏域外在住の方が450名、圏域内在住の方が400名を予想しています。圏域外在住の方につきましては、帰省前に健康管理と検査キットで検査をしていただきます。これから送付します案内通知に検査キットを同封します。式前には抗原定量検査またはPCR検査を受けていただき式に参加していただきます。式後には検査キットを再度配布し、健康管理に努めていただきます。圏域内在住の方につきましては、式前に抗原定量検査を受けていただき、式後に同じく検査キットを配布し、健康管理に努めていただきます。それから地区参加者の皆さんは式前と式後に簡易検査キットを配布し、健康管理に努めていただきます。続いて21ページの(イ)をご覧ください。圏域外の医療機関での検査に対する補助ですが、式典開始前48時間以内に当圏域内の検査機関で検査できない方については、48時間以内に出発地の検査機関で抗原定量検査、もしくはPCR検査を行っていただき、その検査費用の補助を行います。全参加成人者に抗原定量検査やPCR検査の実施を計画しています。会場での感染症対策は記載の内容を考えています。例えば、席も完全に指定し、参加者の位置を特定できるように配慮します。また、30分を目安とした定期的な換気、新成人以外の出席者については縮小をさせていただくことを実施します。その他になりますが、新成人への案内状での注意喚起ということで、ワクチン接種の推奨や成人式を実施する体制を整えるためにも式後の会食の自粛を要請させていただくということで、成人の自覚を訴えながら要請していきたいと考えています。さらに地区実行委員会を通じて自粛や機会を改めるように要請することを考えています。最後に予定している開催単位、式典会場、開会時間、出席予定者数を記載しています。出席予定者数につきましては、過去5年分の出席者数を参考に割合で算出しています。式典の会場も公民館から体育館へ変更し、できるだけソーシャルディスタンスがとれる会場で行う工夫を行いながら進めていきたいと計画しています。一生に一度の成人式なので、最大限の対策を実施していきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(座長)

気になる点がありましたらご指摘をいただきたいと思います。

(委員)

昨年行った交通費の補助について今回はしないということですね。

(座長)

昨年は「Back to 飯田」として交通費の補助をしましたが、今年は検査キットを無償配布していますので、帰省等を考えられている方には、こちらを利用してほしいということです。

(委員)

今年も補助が出ると思っている方もいるので、今年度については交通費の補助はありませんということを明らかにした方が良いと思います。あと、検査キットも大事ですが、都会ではワクチンパスポートの利用も話題になっているので、飯田市でも検討できれば良いと思います。ワクチン接種率の向上にもつながると思います。

(座長)

今のお話にもありましたが、こちらからの広報が大切だと思います。帰省の際には検査キットを活用してほしいということやワクチン・検査パッケージとワクチンパスポートという言葉が混在しているので、広報をきちんとしていきたいと思います。

成人式の対策については、夏に比べワクチン接種が進んでいることや感染レベルが高い時にはオンラインに切り替えることを明確に打ち出していることが提案されているわけですが、気になる点があればぜひお願いします。

(委員)

個人的な意見ですが、検査の組み立てを見ればきっちりできていると思います。ただ、判断基準日が2週間前の12月23日ですね。去年の年末年始を振り返ると、クリスマス明けから年明けにかけて感染者数が上がりました。2週間前に開催の判断をして、その後に感染状況が変わっても、今回は開催方法をオンラインにすると定めています。この計画を見ると今までの経験やこの圏域が作ってきた検査体制も盛り込まれていますので、できるだけ開催していただけないかなという気持ちです。

(委員)

何事にも皆さんの命を守ることが大事ということで、この計画で準備していただければよろしいかと思います。

(座長)

ありがとうございました。今日は短い時間の中でたくさんご検討をいただきました。前半ご説明しました飯田版ワクチン・検査パッケージについては、もう少し詰めた上でご相談させていただきます。成人式は感染状況により開催方法が変更となるかもしれないという注釈をつけながら、この内容で進めさせていただきたいと思います。

(委員)

言いそびれましたが、「安全」と「安心」を同じ認識でいる人がいますが、私は今回のコロナを通して違うものだと

感じています。「安全」と「安心」を切り分けて物事を意識したいと考えています。

(座長)

また一緒に考えさせていただきたいと思います。それでは本日の会議はこれで終了させていただきたいと思
います。ありがとうございました。